

## 21世紀アジア学部の入学前教育・初年次教育の取組

21世紀アジア学部教務主任・表 きよし

### 入学前教育

#### 《かつての取組》

- ① 3つの課題から1つを選び、調べた結果を報告する。  
→アジアや日本への関心を高め、自分なりに取り組む姿勢を育てる。  
→報告に対して教員が十分に対応することができなかった。
- ② 予備校のプログラムにより文章表現力を磨く。  
→文章を書くための要点を把握し、レポート作成などの基礎力を身につける。  
→合格時期が異なるため、余裕を持って取り組めない場合がある。費用が高い。

#### 《今後の検討課題》

- ① 大学で学ぶ上で必要な文章表現力・読解力を養成する。  
日本人学生と留学生、合格時期の違いに対応したプログラムの検討が必要。
- ② アジアへの関心を喚起する。  
課題研究に取り組む、課題図書を読むなどの方法でアジアへの関心をさらに高める。  
アジアに関する基礎知識を身につけておく。
- ③ 大学の仕組みを理解する。  
入学後のオリエンテーションだけでは十分に理解することが難しい。  
あらかじめ仕組みを理解しておくことで、余裕を持って授業に臨むことができる。

### 初年次教育

#### 《21世紀アジア学入門》

1年生必修科目。Ⅰ（データ・思想編）、Ⅱ（歴史・社会編）、Ⅲ（法制・政治編）、Ⅳ（経済・ビジネス編）の4科目8分野を8名の教員が担当。  
アジアについて考えていく上で最低限必要な事柄を取り上げていく。  
アジアについて学ぶ手がかりをつかむ。

#### 《総合演習》

1年生必修科目。春期が「総合演習1」、秋期が「総合演習2」。  
1クラス20名程度で、日本人学生と留学生、男女のバランスに配慮してクラスを指定。  
「調べる、考える、発表する」能力を養っていく。  
ホームルームとしての役割。気軽に相談できる教員と気軽に話ができる仲間を作る。  
クラスごとに授業内容に違いがあるため、他学部の取り組みを参考にしながら、統一した方針で授業が行なえるよう検討している。